

令和2年度 自己評価表 坂町立坂中学校 ～ 創造的でたくましい心豊かな生徒の育成 ～

中期経営目標	短期経営目標	評価項目(具体的な取組・方策)	評価指標	参考値 (令和元年度)	目標値	実績値		評価 (自己評価の結果)	成果と課題	改善策
					令和2年度	中間	最終			
【確かな学力】 主体的に学び、 これからの社会 に必要な学力を 身に付けた生徒 の育成	基礎的な学力 の定着	・管理職による日常的な授業観察 や組織的な研究授業を通した分 かる授業づくり ・毎トレノートの取組 ・定期試験前の質問教室の設定	生徒ア ンケート 「授業が わかる」	—	90%	92.5%	93.5%	B	・「生徒にとってわかる授業づくり」に向けた授業改善、学習規律の徹底、毎トレタイムや質問教室等に継続して取り組んだ結果、中間より+1ポイント上がり、目標値を上回った。 ・感染症対策をとりながら、今できる範囲の中で授業を工夫した。	・学年・教科間で数値のばらつきが広がった。すべての教科において「生徒にとってわかる授業」の質の向上をめざし、「基礎的な学力の定着」を図る。 ・次年度は、一人一台タブレットを活用した授業づくりを行う。今後は、研修の充実を図る。
	これからの社会 に対応した 学力の定着	・管理職による日常的な授業観察 や組織的な研究授業を通した授業 改善 ・安心して学べる学習環境の徹底	標準学 力調査	【標準スコア平均】 旧第6学年 51.0 旧第1学年 49.4 旧第2学年 51.7	同一集団 で昨年度 よりもアッ プ	—	【標準スコア平均】 第1学年 52.4 第2学年 52.8 第3学年 51.3	B	・授業前の着ベル、号令、整理整頓など学習規律の徹底を図り、落ち着いた学習環境で授業を行ったことから、第3学年は0.4ポイント目標値を下回ったものの、第1学年は+1.4ポイント、第2学年は+3.4ポイント上回った。	・さらに学習規律の徹底を図り、安心して学べる学習環境を整える。 ・単元構成力の向上、ねらいに応じた活動内容の吟味、定着に向けた取組の充実、指導技術の向上など、教職員一人一人の指導力の向上に一層取り組んでいく。
【豊かな心】 自らを律し、自分 や友だち、家族 やふるさとを大切 にする心をもった 生徒の育成	礼節の向上 ・挨拶 ・黙動清掃	・全教職員による日々の粘り強い 指導 ・委員会活動など生徒の自治活動 の推進	生徒ア ンケート	【挨拶】「自ら進んであいさつすることができる」88% 【黙動清掃】「掃除の時間に黙動で時間いっぱい集中して掃除している」92%	①90% ②95%	①93.9% ②96.1%	①91.4% ②96.6%	B	・あいさつ、黙動掃除ともに目標値を上回った。 ・教員による登下校時の声掛け、学級委員会による授業時の号令に関わる取組、第3学年の面接指導や部活動におけるあいさつ指導により、気持ちのよいあいさつができる生徒が増えた。 ・美化委員長の放送による毎日の呼び掛けにより、全生徒が黙動清掃を意識できている。教職員が生徒につき掃除の仕方を丁寧に指導し、その場で指導することにより、黙動掃除が概ね定着している。	・今年度は感染症対策のため、生徒のあいさつ運動の中止や毎時間の号令の変更など、様々な制約があった。今後も感染症対策に努めながら、今できる取組を進めていく。 ・型から生徒主体の活動に改善し、美化委員会活動を充実させる。
	自他を大切に する心の育成	・防災教育の推進 ・わいがやタイムの実施 ・部活動の充実 ・道徳の時間の充実	生徒ア ンケート「他 者を思いや り、大切に することが できる」	94%	95%	98.3%	99.1%	B	・感染症対策のため、例年実施している防災学習をできなかった。全校級でわいがやタイムに取り組み、共感的な雰囲気醸成した。 ・今年度は「人に優しく」を合言葉としたことで、お互いを思いやる姿が随所に見られた。 ・感染症対策をしながら、部活動指導を重視した。 ・様々な制限がある中、組織的に取り組んだことにより、目標値を上回った。	・感染症の状況を注視しながら、防災教育、わいがやタイムに取り組んでいく。 ・引き続き、顧問と外部コーチが連携し、部活動指導の充実を図る。部長会をさらに機能させ、生徒主体の活動を進めていく。
【たくましい体】 社会で生きて働 くためのたくま しさをもった生徒 の育成	心身の健康 の保持増進	・保健だよりによる保護者・生徒への 啓発 ・部活動の充実	生徒ア ンケート「普 段生活の中 で体力づく り運動をし ている」	75%	80%	83.6%	78.8%	B	・冬場に感染症対策を強化する必要があったため目標値には届かなかったが、昨年度より向上した。 ・保健だよりを6号発行し、心身の健康の保持増進や感染症対策に関わる啓発を年間を通して行った。 ・保健体育科では、自宅で行えるトレーニングを紹介し、長期休業中に課題を与えるなどして、毎日の運動を促した。 ・感染症対策をしながら、部活動を重視し、生徒の体力づくりを進めた。	・今後も保健だよりを定期的に発行し、心身の健康の保持増進を促していく。 ・感染症の状況を注視しながら、部活動の充実を図る。
	基本的な生活 習慣の定着	・保健だよりによる保護者・生徒への 啓発 ・SNSやゲームの使用に係る指 導	生徒ア ンケート「毎 朝2品以上 の朝食を食 べている」	—	60%	78.0%	82.5%	A	・中間よりも向上し、かつ目標値を大幅に上回った。 ・保健だよりにより啓発を図った。 ・家庭科の授業では、自分の朝食についての現状と課題、改善策について考えさせる授業を行った。 ・SNS等アンケートを3学期に行い、現状を把握し、それをもとに教育相談を行った。	・引き続き保健だよりを通してバランスの良い食事の重要性について啓発を図る。 ・家庭科の指導内容を教職員で共有し、バランスの良い食事の指導に役立てる。 ・SNS等アンケート結果を生徒指導通信で伝え、保護者の啓発を図る。
【信頼される学校】 保護者から信頼 される学校づくり	積極的な情報 発信	・ホームページや一斉メールによる 情報発信 ・電話や家庭訪問を通した日常的 な保護者との連携	保護者ア ンケート「坂 中の教育に 満足してい る」	85%	90%	84.7%	84.8%	C	・目標値を下回り、昨年度と変わらなかった。 ・毎月学校だよりを発行した。感染症対策のため、参観日等は実施しなかったが、体育祭の様子をホームページで発信した。2学期末三者懇談会に合わせて、文化展示発表会を行った。 ・担任や顧問から、欠席時の連絡や学校の様子等について、保護者と綿密に連携した。 ・不審者情報等を一斉メールを使って迅速に発信した。	・引き続き、細やかな情報発信をする。 ・学校だよりやホームページを活用して、生徒の様子を発信する。学校だよりホームページのQRコードを掲載する。 ・感染症対策をとりつつ、保護者が学校に来てもらえる機会を確保する可能性を模索する。
	主任層を中心 とした活力あ る職員集団の 形成	・運営委員会等を活用した人材育 成 ・面談等による役割や目標の確認 ・管理職による日々の声掛け	業務改 善ア ン ケート	【充実感】「充実感が得られている」 — 【子どもと向き合う時間】「子供と向き合う時間が得られている」 —	70% 70%	90.3% 82.8%	100% 83.3%	A	・目標値を大幅に上回った。 ・主任層が企画、運営を行いやすい環境づくりを進めたことで、職員の学校運営への参画意識が高まり、校内全体が活性化した。 ・感染症対策のため、全職員で生徒につく環境を重視した。	・今後も主任層が企画、運営しやすい環境を整えるとともに、一層の業務改善を進めていく。 ・引き続き、学校運営の中で、教職員が生徒に向き合う時間を確保することを重視する。

【自己評価 評価基準】 A: 目標は十分達成された(目標値+5%以上) B: 目標は達成された(目標値±4%) C: 目標は達成されなかった(目標値-5%以下) D: 目標は全く達成されなかった(目標値-10%以下)